



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.6.6 No. 4004

日米の朝鮮侵略戦争反対! 全力で6.19へ!

「北朝鮮に重苦しい雲が垂れこめてきた」「北朝鮮への制裁は避けられないのか、予断を許さない段階へ」……この二三日の新聞の紙面は、「北朝鮮問題」で埋め尽くされている。しかし、北朝鮮の悪口は言いたい放題なのに対し、二万発から三万発(一)と推定される核弾頭を保有するアメリカが「北朝鮮の核疑惑」なるものを理由として戦争を始めようとしていることの野蛮さ、その不自然さ・倒錯に疑問を投げかける新聞はひとつもない。

また、北朝鮮問題で埋め尽くされた同じ日の新聞には、日本政府が、ハーグの国際司法裁判所に「核兵器の使用は国際法上、必ずしも違法とは言えない」とする「意見陳述書」を提出する準備をしていることが報道されている。その日本が、北朝鮮に対し、「核疑惑」を口実に、軍事的措置を含む「制裁」を行なおうというのである。昨日の言動を今日翻して平然たる風景、根本的な「非常識」が世の中を覆い、侵略戦争が正当化されようとしている。

「制裁」とは戦争行為そのものである。すでに、

事実上の「宣戦布告」状態だ。「制裁」の是非は新聞でも、おっかかびつくり形式的に論じられるが、それが何を意味するかは、誰も言わない。

一九五〇年から始まった第一次朝鮮侵略戦争では、「停戦」の五三年までに、二六万発の爆弾が投下され、二億発の弾丸、四〇万発のロケット弾、一五〇万発のナパーム弾が発射され、毎日五百〜千五百の戦闘機が飛びかっつて絨毯爆撃が行なわれ、その結果、全朝鮮人口の一〇%に近い三百万人が犠牲になったのだ。

さらには、この戦争挑発の背景が、朝鮮―中国―アジアの権益をめぐって日米の利害が真正面から衝突したことにあり、その本質は、アジアの支配権を争う日米の侵略戦争であることなどは、ひと言も述べられることがない。何ひとつ具体的な内容ぬきに、「戦争」が平然と語られ、「有事」が語られている。断じて侵略戦争への突入を許すことはできない。これからの時々刻々が歴史を決するのだ。この事態に対する労働者の決断こそが歴史を創るのだ。全力で起ちあがろう!

6.3 直営店の廃止 ・新設を提案 ―直ちに運転職場に戻せ!

六月三日、千葉支社は、別表のとおり、直営店舗四ヶ所の廃止と、二ヶ所の新設を提案してきた。

廃止される四店舗には、全て動労千葉の組合員が配置されている。繰り返すまでもなく、当局が動労千葉の組合員を売店等に不当配転したときの理由は、「余剰人員の活用」であった。しかし、この間明らかになってきたとおり、現在運転職場は、慢性的な欠員状態が続いている。このような状況のなかで店舗を廃止するというのであれば、当然にも、直ちに希望する者を運転職場に復帰させるべきである。しかし当局は、またも、たらい回しの再配転を強行しようという動きにある。

ミルクスタンドの廃止に始まって、この間直営店舗の廃止が相次いでいるが、これは、動労千葉や国労の組合員を配転し、隔離するために、人件費も到底捻出できないような店舗を次々と設けて、それを「関連事業の育成」「新規事業の開拓」などと称してきた、異常な労務政策の完全な破たんを意味するものである。

だからこそ、当局は、この店舗廃止や新設をこの提案の日までひた隠しにしていた。提案のわずか二週間前に行なわれた団交で、動労千葉は、直営店

	廃止/新設対象店舗	廃止/新設時期
廃止	なのはな津田沼1号店	8月中旬 睽
	なのはな津田沼2号店	8月中旬 睽
	なのはな長浦店	9月下旬 睽
	なのはなそば佐原店	9月下旬 睽
新設	デリカショップ津田沼店	9月上旬 睽
	コンビニストア四街道店	11月上旬 睽

舗のスクラップ&ビルドの考え方について、四街道店の新設等の噂があることについて質したが、当局は、「知らない、ほんとうに聞いていない」と繰り返したのである。このような不誠実団交を繰り返し、経営的にも全く成り立たないような売店に動労千葉の組合員を七年も八年も塩漬けにし続けたことの責任も一切明らかにならず、そしてまた新たに再配転しようというのだ。こんなやり方を断じて許すことはできない。千葉支社は、強制配転者を直ちに運転職場に復帰させろ!